

アーツコミッション・ヨコハマ(ACY)

平成 29 年度 事業報告書

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団

＜平成 29 年度 総括＞

相談業務を中心に横浜都心臨海部への人材集積、認知度の向上を担う中間支援組織として、横浜に集うアーティストやクリエイター・NPO・市民・企業・学校など、様々な創造活動を行う人たち(創造の担い手)をサポートしました。

「横浜版アーツカウンシル」体制の構築に向け、平成 28 年度からはじめた「文化芸術創造都市プラットフォーム」の取組みが 2 年目を迎えました。昨年度実施した、「文化芸術創造都市・横浜プラットフォーム・ミーティング『横浜の未来にひらく“100 の種”』」から生まれた 3 つのモデルプロジェクトを始動しました。

1. 相談件数が前年比 123%

横浜に集うアーティストやクリエイター・NPO・市民・企業・学校など様々な創造活動を繰り広げる人たち(創造の担い手)の相談 236 件(前年比 23%増)を受けました。これまで培ってきた官民双方のネットワークを活かしてアドバイスからマッチング、コンサルティングまで幅広く対応し、企業・行政とデザイナー、クリエイターとのマッチング等を行っています。

2. 文化芸術創造都市横浜プラットフォームのモデルプログラムが開始

文化芸術創造都市・横浜の第2ステージにおいて、平成 28 年度から 30 年度の 3 カ年で、文化芸術振興、創造的まちづくり、創造的産業の育成等における様々なプレーヤー同士が出会い、相乗効果(シナジー)を生み出すための触媒機能を担う都市基盤(プラットフォーム)の形成をはかっています。今年度はその 2 年目として、3 つのモデルプロジェクトを実施しました。

3. 助成の採択者が活躍

横浜から世界に芸術文化を発信する次世代のアーティストを育成し、そのキャリアアップを支援するための助成(創造都市横浜における若手芸術家育成助成 クリエイティブ・チルドレン・フェローシップ)は枠を拡大し、7 名(うち 3 名継続)を採択しました。横浜のみならず海外でも活発に制作・発表を行い、ステップアップしています。また、アーティスト・クリエイターの創造性により、年齢や性別、障害の有無や国籍などにとらわれることのない社会を横浜の魅力として発信していくための、クリエイティブな活動を支援する助成(クリエイティブ・インクルージョン活動助成)の採択事業は、「ヨコハマ・パラトリエンナーレ 2017」で発表を行うなど、横浜から新たな創造的な取組みを発信しました。

4. 助成採択者への支援体制の充実

29 年度から開始したのが、助成採択者への伴走型評価を通じた人的支援の充実です。芸術と社会の関係性における評価に取り組む若手の研究者らを専門人材としてパートナーに迎え、採択者の成長、事業の成長、助成制度自体の成長を目的に行い、視察、ヒアリングやワークショップを通じて支援をしました。

5. アーティスト・クリエイターのための事務所等開設支援助成 4 年間で 43 件

横浜での活動を考える若手アーティスト・クリエイターからの相談を助成申請につなげ、年間で 9 件を採択しました(申請 11 件)。横浜市中期 4 か年計画の目標数値(平成 26～29 年度で 30 件)を越え 4 年間で 43 件を採択しました。今後もアーティスト・クリエイター誘致に努めます。

1 相談業務

相談件数(平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月) 総数 236 件

内容	件数	相手方	件数
紹介／マッチング	56	アート系	56
企画全般	39	クリエイター系／創造産業系	54
助成	36	行政	46
広報	23	一般企業	40
情報提供	22	市民団体	17
移転	21	その他	14
DB 登録希望	17	大学	5
視察／調査／取材	14	マスコミ	4
その他	8	オーナー	0
合計	236	合計	236

今年も様々な方から多様な相談を受けました。企業、行政からの相談が増えており、アーティストやクリエイターに仕事を依頼したいという紹介、マッチングに関わる件数も増加しています。

2 文化芸術創造都市プラットフォーム

文化芸術創造都市・横浜の第2ステージにおいて、平成 28 年度から 30 年度の 3 カ年で、文化芸術振興、創造的まちづくり、創造的産業の育成等における様々なプレーヤー同士が出会い、相乗効果(シナジー)を生み出すための触媒機能を担う都市基盤(プラットフォーム)の形成をはかっています。今年度はその 2 年目として、昨年度行った「100 の種」イベントから派生したクリエイターによるミーティングを通じて、横浜のクリエイターが企画する 3 つのモデルプロジェクトを立ち上げ、実施しました。

(1)2059 FUTURE CAMP in YOKOHAMA

企業、行政、クリエイター、学識者、市民団体、NPO 等の創発型ネットワーク形成を意図して企画。開港 200 年となる 2059 年の未来の横浜を考えるクリエイションキャンプとして、今後横浜の未来に関わることが期待されるキーパーソン 44 名が集まり、共創を行う 1 日となりました。産学官越えて集った多様な参加者は肩書を外し、未来にまつわる対話を重ね、横浜への想いやアイデアを共有。今後、社会実験、社会変革といったアクションが起きることを期待して第一回目を終えました。

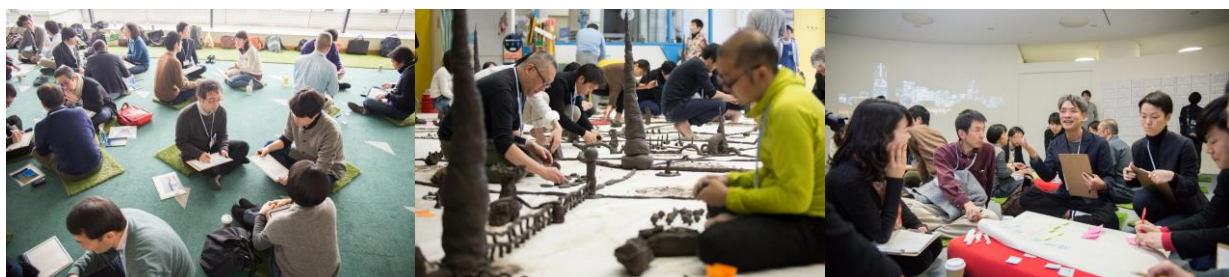
日 時:平成 30 年 2 月 25 日(日)10:00～18:30

会 場:横浜みなとみらいホール、横浜美術館

参加者:企業、行政、クリエイター、学識関係、市民団体、NPO 等から 44 名

内 容:プレゼンテーション、グループワーク、合同ワークショップなどで構成。

企画クリエイター;NOSIGNER 太刀川英輔



(2)文化芸術創造都市横浜プラットフォーム実験事業調査

横浜ならではの魅力を持つ横浜都心臨海部の空間活用をテーマとした意向調査。横浜都心臨海部活性化の視点から、芸術やデザインと社会の関係性を調査することで、文化芸術創造都市施策によって集積をしたアーティストやデザイナーの活躍の場を増やし、そのブランド力を強化していくことを意図しました。

対象エリアは、横浜らしい市民に開かれた水辺空間である、みなとみらい地区の公共空間に設定。横浜の都市の軸線や歴史を顕在化させて、公共空間をつなぐことで、都市の魅力を再価値化させていくイルミネーション企画を仮説として立て、そこに関係する行政や企業にヒアリングを行い報告書にまとめました。

調査期間：平成 30 年 2 月～3 月

調査対象：19 の企業、局課。

調査内容：横浜の水辺に広がる公共空間の創造的な活用について

企画クリエイター：stgk 熊谷玄



(3)「横浜という体験」をデザインする講座

現在、全国各地でさまざまな自治体が「地域の魅力」を発掘・発信し、ますます多様化・国際化が進む社会の中で、あらためて「横浜」という都市の個性やアイデンティティを文化施設や企業の現場で働く職員とクリエイターが共に考えていくための講座。

まちの人たちにとって、横浜で暮らし、横浜で働く価値とは何か。訪れる人たちにとって、横浜はどんな場所として記憶されるのか。この講座では「体験のデザイン」という視点から、まちの個性を再発見・再定義する力を養うことを趣旨に開催しました。「広報物のデザイン」といったアウトプットだけでなく、企画の段階からどのようにクリエイターやデザイナーをパートナーとして巻き込んでプロジェクトを進めるかなど、主に事例を通じて基本的な知識やフレームワークを身につける入門講座を開催。

第1回目

「体験」で再発見する都市の価値—『官能都市 Sensuous City』のフレームワークを実装する

日時：平成 30 年 3 月 15 日(木)18:00～

会場：THECAVE

ゲスト講師：島原万丈 (LIFULL HOME'S 総研 所長、
マーケットリサーチャー)

第2回目

公共空間を「物語」でデザインする—“体験”と“共感”
で育むまちへの愛着

日時：平成 30 年 3 月 29 日(木)18:00～

会場：BUKATSUDO

ゲスト講師：青木 純(株式会社 nest 代表取締役 / 株式会社 まめくらし 代表取締役)

企画クリエイター：石神夏希



3 助成

横浜市では、文化芸術創造都市の一層の推進を図るべく、才能豊かな新進アーティストなど将来の芸術家の芽を育む取組を推進し、ライフステージに応じた次世代育成（クリエイティブ・チルドレン）を幅広く展開しています。また、障害・人種・国籍・宗教・年齢・性別等の様々な違いを越えて創造的に課題解決を図るとともに、誰もが対等な関係で関わり合い、社会や組織に参画するという考え方（クリエイティブ・インクルージョン）をもって、事業を実施しています。これらの趣旨のもとアーツコミッション・ヨコハマ事業として2つの活動助成プログラムを実施しています。

「創造都市横浜における若手芸術家育成助成 クリエイティブ・チルドレン・フェローシップ」は、横浜から世界に文化芸術を発信する次世代のアーティストを育成し、そのキャリアアップを支援するための助成です。アーティスト活動へ助成を行っています。

「クリエイティブ・インクルージョン活動助成」は、共生社会の実現に向けて、アーティスト、クリエイターによる創造性を活かした社会包摂を試みる多様なプロジェクト（活動）を支援し、そのことが横浜の新たな魅力となり、世界へ発信されていくことを目指すものです。

また、横浜都心臨海部を創造的活動により活性化させる創造まちづくりの取組みとして、アーティスト、クリエイターの都心部への誘致をはかるための「アーティスト・クリエイターのための事務所等開設支援助成」を実施しています。

(1) 創造都市横浜における若手芸術家育成助成 クリエイティブ・チルドレン・フェローシップ

応募総数 30 件（舞台芸術 13 件、美術 17 件） ※うち継続 3 件

採択件数：7 件、交付総額：6,000,000 円

審査会：平成 29 年 5 月 24 日

報告会：平成 30 年 3 月 2 日

審査員：

窪田研二（キュレーター） KENJI KUBOTA ART OFFICE 代表

曾谷朝絵（アーティスト） VOCA 展 2002 グランプリ受賞、
2013 年横浜文化賞文化・芸術奨励賞

中野仁詞（キュレーター） 神奈川芸術文化財団キュレーター、
第56回ヴェネチアビエンナーレ国際美術展日本館キュレーター

木村絵理子（キュレーター）横浜美術館主任学芸員

多田淳之介（演出家・俳優）東京デスロック主宰
富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ芸術監督

中村恩恵（振付家・ダンサー）2011 年芸術選奨文部科学大臣賞
2013 年横浜文化賞 文化芸術部門

山口真樹子（ドラマツルグ） 国際舞台芸術交流

中富勝裕（プロデューサー）横浜市芸術文化振興財団 プロデューサー（ダンス）

<採択者(フェローシップ)>

① 青木 直介 (振付家、ダンサー)

1988 年、東京生まれ。14 歳よりブレイクダンスを始める。2010 年、東京造形大学映画専攻卒業。在学中より美術作品、舞台作品、パフォーマンスなどの制作、発表を始める。卒業後、いくつかのダンスカンパニーに参加した後、aokid city を主宰。

サポート内容:ST スポットでのソロダンス公演作品制作、ダンスによる実践のためのイベント会場紹介、インタビュー記事作成・出稿など。

助成額:500,000 円

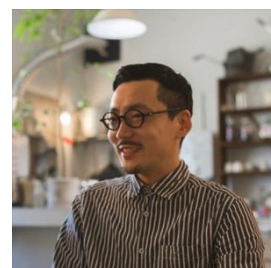


② 小田桐 奨 (アーティストユニット・LPACK.所属)

最小限の道具と現地の素材を組み合わせ、国内の様々なスペースを「コーヒーのある風景」に変えるカフェ・プロジェクトや、各地の国際芸術祭におけるビジターのためのスペースづくり、美術館の教育普及プログラムと連動したワークショップスペースの設計など、アート、デザイン、建築、民藝などさまざまな領域を横断しながら、アーティストと鑑賞者、地域の人々とのコミュニケーションの場を創造している。

サポート内容:展示作品のアーカイブ作成、作品化された拠点「Daily Supply SSS」の制作、インタビュー記事作成・出稿

助成額:1,000,000 円



③ 武田 力 (アーティスト、俳優)

演劇に俳優として関わる。2012 年より自身での作品制作を開始。素材は「たこ焼き」や「糸電話」や「街」など。それらはアジア各地の民俗芸能をもとに創作される。民俗芸能に社会の端緒を見、そこに現代を反映して観客一人ひとりと思考する作品を制作している。

サポート内容:継続したフィリピンでのリサーチ滞在および作品上演、TPAM のグループミーティングに参加。

助成額:1,000,000 円



④ 田村 友一郎 (アーティスト)

東京藝術大学大学院映像研究科博士後期課程修了。既にあるイメージや自らが撮影した素材をサンプリングの手法を用いて使用し、独自の関係性を導き出しながら再構築することで、時空を超えた新たな風景や物語を立ち上げる。

サポート内容:日産アートアワードおよび小山市車屋美術館にむけた新作制作

助成額:1,000,000 円



⑤ 山縣 太一（オフィスマウンテン主宰、俳優、演出家、劇作家、振付家、ダンサー）

2001 年より演劇カンパニー・チェルフィッチュに俳優として参加。各作品において自身の振り付けを行い、中心メンバーとしてチェルフィッチュを牽引。日常の無自覚な身体を自覚的に舞台上にのせるための独自のメソッドを考案し、ワークショップを横浜を中心に行う。

サポート内容：ST スポットでの新作公演の制作、長期ワークショップ・オーディション開催、TPAM 上演作品の日英翻訳、インタビュー記事作成・出稿

助成額：1,000,000 円



⑥ 山本 卓卓（範宙遊泳／ドキュメント代表、劇作家、演出家、俳優）

舞台上に投写した文字・写真・色・光・影などの要素と俳優を組み合わせた独自の演出と、観客の倫理観を揺さぶる強度ある脚本が海外からも注目を集め、マレーシア、タイ、インド、中国、シンガポール、ニューヨークで公演や共同制作も行う。

サポート内容：シンガポールとの国際共同制作における滞在、インタビュー記事作成・出稿

助成額：1,000,000 円



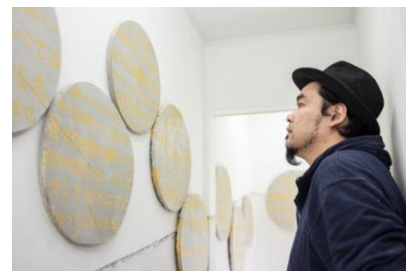
⑦ 渡辺 篤（現代美術家）

東京藝術大学在学中から自身の体験に基づく、傷や囚われとの向き合いを根幹とし、かつ、社会批評性強き作品を発表してきた。表現媒体は絵画を中心に、インスタレーション・写真・パフォーマンスなど。

テーマは、新興宗教／経済格差／ホームレス／アニマルライツ／ジェンダー／ひきこもり／精神疾患など多岐にわたる。卒業後、路上生活やひきこもり経験を経て 2013 年、活動再開。以後精力的に発表を続けている。

サポート内容：作品集ブックレットの制作、新作映像作品の制作

助成額：500,000 円



(2)クリエイティブ・インクルージョン活動助成

応募総数：22 件（テーマ 11 件、自由 11 件） ※うち継続 2 件

採択件数：7 件 交付総額：4,378,540 円

審査会：平成 29 年 5 月 9 日

中間報告会：平成 29 年 9 月 12 日、報告会：平成 30 年 3 月 4 日

審査員：

栗栖良依(NPO 法人スローレーベル ディレクター)

石川絵理(NPO 法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク事務局長)

治田友香(関内イノベーションイニシアティブ株式会社 代表取締役)

曾我部昌史(建築家、神奈川大学工学部建築学科教授)

岡崎智美(横浜美術館 教育普及グループ子どものアトリエ 主任エデュケーター)

①黄金町 BASE（代表：山田裕介）

「黄金町 BASE」 交付額：178,540 円

【実施内容】

運営期間 2017 年 8 月 4 日～2018 年 3 月 10 日

運営回数 60 回

参加者 562 名 BASE 新聞発行数：3 回

内容：昨年度からの継続事業。黄金町の高架下に放課後子どもたちが遊べるアートスペース「黄金町 BASE」を設置。黄金町エリアで活動するアーティスト・山田裕介を中心にチームをつくり、子ども向けのスペースづくりを行っています。毎週 2 日程度放課後の時間にあわせて開館。そこで、子どもたちは何か目的をもって作品をつくるのではなく、工具や画材、木材などが置かれた場所で、自分で作りたいものを考え、大人の手を借りずに自分の手で作る仕組みです。その様子を BASE 新聞という形で月 2 回学校を通じて配布、活動の周知を地域に行っています。



黄金町周辺は、外国籍の住民が多く、現在も外国とつながりのある子どもたちが多く住んでいます。そうした子どもたちへの放課後の居場所づくり、また地域との融合の場としても成果をあげており、同所で活動する黄金町エリアマネジメントセンターが、国際交流基金の地球市民賞の受賞する理由にもあげられています。

昨年度課題であった「かいだん広場」という公共空間の使い方についても、子ども達とルールづくりを行い、今年度は近隣からの苦情もなく無事に活動を終えており、運営に成長が見られます。

②スタジオオニブロール（代表：矢内原充志）

「YOKOHAMA INSIDE FASHION @KOTOBUKI」 交付額：600,000 円

【実施内容】

期間 平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

5 月 12 日 街の撮影

8 月 7 日 ポートレート撮影の設定をして、勤労協スタッフさん撮影。
作品の物撮り撮影のトライアル。

12 月 5 日 ポートレートの撮影 5 名

翌年 2 月 23 日 ポートレートの撮影 6 名

翌年 3 月 2 日 着こなし講座@寿町勤労者福祉協会 3 階娛樂室 来場者数 47 名

寿町訪問実績 合計 49 回 約 200 名と会う。

内容：昨年度からの継続事業。昨年度は、寿町の住民やそこで働く人を対象に取材をし、その結果に応じて洋服の制作、スタイリングのアレンジ、写真撮影等を行い、展覧会を行うプログラムで、今年はその続編として実施。寿町の創造性の顕在化に重きをおいた昨年度と代わり、そこから得られたものから洋服の創作をしていく段階へ移行しています。プロのファッションデザイナー、写真家、メイキャップ、編集者に加えて、寿町地域で活動する起業家や福祉協会、組合などと協力し行われています。社会包摂的要素を含んだ芸術表現として、世界に発信されることが期待されます。



③あしおとでつながろう！プロジェクト」(代表:おどるなつこ)

「あしおとであそぼう！ワークショップ&パフォーマンス vol.2～4」 交付額:600,000 円

【実施内容】

実施日 ①平成 29 年 9 月 9 日、10 日 ②平成 29 年 10 月 7 日、8 日、9 日

③平成 30 年 1 月 20 日、21 日

実施場所①ひまわりの郷、②象の鼻テラス特設会場 ③栄公会堂

共催 ヨコハマ・パトリエンナーレ 2017(横浜ランデヴープロジェクト実行委員会 スローレーベル)
パラフェスタさかえ(さかえ egao プロジェクト 横浜市 栄区役所)

協賛 BASEMENT(タップシューズリペア)

協力・後援等 横浜ランデヴープロジェクト実行委員会 スローレーベル さかえ egao プロジェクト
横浜市 栄区役所 ジョイカンパニー 清和園 エヌ・クラブ 生活創造空間にし
ぶどうの木 りっしん洞 多夢多夢舎

来場者数 約 350 名

内容:今年度の新規採択事業。「タップダンス」をツールに、感情が素直に表現される「あしおと」を出しあい聞きあい、輪になって交歓しあうことで、年齢国籍障害の有無をこえてコミュニケーションが可能なることを感じ、ひとりひとりを尊重しあうたのしさを体験する活動です。

気軽に参加できるよう靴を脱がずともタップを踏める道具を開発しています。足袋のような布袋に金属チップを縫いつけた「おとたび」で、これは福祉施設にシューズの縫製・洗濯を依頼し仕事の循環が起きている。

このプログラムは、これまで主に福祉施設内等で行われていましたが、本助成制度の活用をきっかけとして、施設の外に飛び出しパトリエンナーレなどと連携することで、これまでよりも、障がいのある方とない方が一緒に参加できる機会が格段に広がり、新たなファンの獲得にも繋がっています。

また、仙台市にある施設との連携、異なる芸術分野のアーティストとの連携など、創作についても内容の幅、質ともに向上しています。



④坪田義史「ドキュメンタリー映画・大人の発達障がい(仮称)」 交付額:1,200,000 円

【実施内容】

製作期間:平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 18 日

0号試写会:平成 30 年 3 月 19 日 共催:サンディ株式会社

内容:今年度からの新規採択事業。ドキュメンタリー映画の製作。被写体であり、申請者(監督)自身の再従兄弟(はとこ)である発達障がい当事者、大原信(まこと)さん(60 歳)宅へ伺い、彼の生活の様子を撮影。信さんを取り巻く環境、申請者(監督)自身との関係の変化、医師との対話など、様々な出来事を撮影し、ドキュメンタリー映画として一般公開されます。

今年度は、映画の製作までとし、来年度は上映にあわせたイベントやシンポジウムの開催を通して、「人はみな障がいを持って生きていく。何かしらの障がいを抱えて生きているのが、人の個性や特性である」と意識を共有させることを目標としています。映像表現は音声と映像で観るものに訴えることから、「見えにくい障がい」の問題点を浮かび上がらせ、様々な気づきを視聴者に与える可能性が高いと評価しています。



⑤視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ(代表:林建太)

「視覚障害者をつくる音声メディアプロジェクト」 交付額:1,000,000 円

【実施内容】

実施期間:平成 30 年 1 月 15 日～3 月 4 日

会場:横浜美術館 コレクション展示室

体験者数:972 名、チラシ配布 5000 部、当日パンフレット(マップ)配布 12000 部

内容:今年度の新規採択事業。このプロジェクトは、横浜美術館のコレクション展の展示室にて目の見える人も見えない人も楽しめる音声作品を作り公開するものです。それは既存の音声ガイドのように事実や正解に導くものではなく、作品と出会うきっかけや美術館でのいろいろな過ごし方のきっかけとなる音声作品として制作されました。

3 人の俳優が演劇的な考え方をういて、その過程では視覚障害者のスタッフも関わりながら創作。これまで視覚障害者と共に数多くの美術鑑賞ワークショップを行ってきた同団体の経験から、視覚情報が詳細であることが、必ずしも有効で良質な作品鑑賞に繋がる訳ではないことがわかっていたので、通常イメージする介助や状況説明とは、異なる方法「演劇」を用いた音声作品として発表されました。

横浜美術館の協力により、コレクション展に会場された多くの方に活動が認知・体験され、アンケートの収集などでも成果が出ています。



⑥OTON GLASS(代表:島影圭祐)

「OTON GLASS をつけて横浜の街を歩こう! 文字を読みあげるスマートグラスの「活用法」と「ルール」を考えるアイデアソン」 交付額:500,000 円

【実施内容】

イベント実施日:平成 29 年 12 月 17 日(日)

会場:横浜市の街なか

拠点として①野毛 Hana * Hana、②慶應義塾大学ソーシャルファブリケーション・ラボ

共催:慶應義塾大学 SFC 研究所 ソーシャルファブリケーション・ラボ

協力:馬車道商店街協同組合(スターバックスコーヒー関内馬車道店、馬車道十番館、平安堂薬局馬車道本店、HANAKURA 馬車道店花屋)。横浜にぎわい座、象の鼻テラス、横浜市交通局

参加人数:26 名(内 5 名はテレビ取材)

参加ゲスト:小林茂(情報科学芸術大学院大学[IAMAS])

渡辺智暁(慶應義塾大学)

水野祐(弁護士・シティライツ法律事務所)

倉崎伸一郎(弁護士・シティライツ法律事務所)

寺田真治(IoT 推進コンソーシアム データ流通促進ワーキンググループ理事)

内容:今年度の新規採択事業。撮影した文字を音声にして読み上げるメガネ型デバイス「OTON GLASS」。視覚障害者や失読症の方々が利用するために開発されています。新モデルの販売に向け、作り手とユーザーが共に協力しながら事業を進めています。

正しく安全に世の中に普及させていくためには、ソフトウェアやハードウェアの改良だけにとどまらず、「OTON GLASS」を利用するにあたってのルールも同時に準備していく必要があると考えられ、今回それを都市の中で実験するプロジェクトが実施されました。

街中で、「OTON GLASS」を日常で利用すると、どのようなデータが集まるのか? そのデータはどのように応用でき、どのような法やルールに合致/反対するのか? まだ全容の見えないこれらのテーマを、実際に横浜の街で「OTON GLASS」を利用しながら明らかにしていくためのイベントを企画・実施。

視覚障害の当事者やヘルパーだけでなく、デザイナーやプログラマー、さらには新領域での法律や制度を専門とする弁護士など幅広い分野の参加者を集めて街歩きし、最後には「OTON GLASS」を魅力的なツールにするためのアイデアを「活用法」と「ルール」として発表し、その実現性や面白さを全体で議論が行われた。NHK 等複数のマスメディアに大きく取り上げられ、取組みの周知が進んでいます。

⑦減災アトリエ(代表:鈴木光)

「災害の備えを学ぶ気持ちにハードルをつくらない減災教育プロジェクト～災害を自分ごととするための my 減災マップ×インクルーシヴデザインの視点～」 交付金額 300,000 円

【実施内容】

実施期間:平成29年6月7日～平成30年2月28日

実施場所:my 減災マップワークショップ(横浜市緑区)

協力・後援等:横浜市緑区総務課危機管理担当、川崎市高津区危機管理担当、(株)ゼンリン、
(一社)減災ラボ

期間中のマップづくり実績:

十日市場小(110名)、竹山小(36名)、東本郷小(120名)、霧が丘学園(38名)、山下みどり台小(58名)、中山小(70名)、山下小(65名)、いぶき野小(180名) 約 677 名

活動参加者数:当事者:色覚問題研究会「ぱすてる」2名、

有識者:特定 NPO MUD 協会1名、大川印刷1名

デザイン関係:デザイナー1名、(株)ゼンリン1名

その他:教育関係者(元緑区東本郷小校長)1名、福祉関係者1名

行政:緑区危機管理担当3名、川崎市高津区危機管理担当2名 計 13 名

販売・発行実績 my 減災マップ オリジナルシール 1000 部

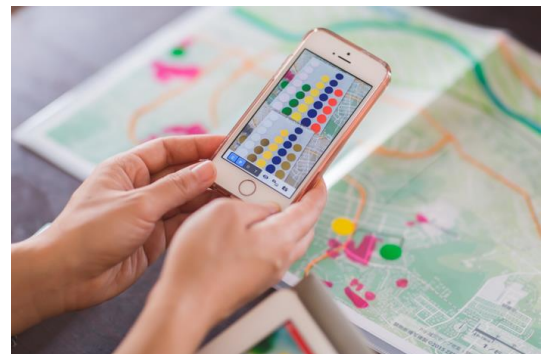
内容:社会的課題として、自然災害による被害を減らす(減災)のは、個々人が、自分の住む地域の災害時の特性を知り、それに応じた予防活動や非常時の行動をとることが大切だが、その意識はまだ低く、また行政等で配布する情報はあまり認知が高くないという実態があります。そこで、この団体は、災害の被害を減らすためには、まずは自分の身近な地域の災害リスクを知ることが最初の第一歩であると考え、オリジナルの減災教育プログラム「my 減災マップ®」を企画・開発しています。

しかし、このマップ制作は、市販物の組み合わせで実施していることから、色覚障がい者には配慮されていないことが課題であり、今回新たにユニバーサルなデザインで自社開発することに挑戦しています。

当事者、有識者(色覚、防災、教育、福祉)、デザイナーらと現状のツールの課題、改善策を共有し取り組みを進め、結果として、オリジナルシールが制作されました。このプロセスにおいて、申請者は、様々な課題の発見と解決を行っており、関係者の間で、自助防災に関する社会包摂の意識が高まっています。



OTONGLASS



減災マップづくり

(3)アーティスト・クリエイターのための事務所等開設支援助成

応募総数:11 件(一期 8 件、二期 3 件)

採択件数:9 件(一期 6 件、二期 3 件)

交付金額:3,600,000 円

審査員: 井手美由樹(中小企業診断士)

伊東祥次(プロダクトデザイナー/デザイン株式会社 代表取締役社長)

森 未柝(横浜市民ギャラリー 学芸員)

審査会:一期 8 月 15 日、二期 1 月 18 日

交付先		分野	金額
1	マントルデザイン(久保 隆文)	照明デザイン	200,880
2	株式会社エイバンバ	建築	500,000
3	古市久美子建築設計事務所(古市久美子)	建築	291,600
4	株式会社柁井淳介デザインスタジオ	空間デザイン	442,788
5	株式会社 I・N FACTORY	ファッション	500,000
6	モ・クシュラ株式会社	出版・編集	226,800
7	Hamanishi DESIGN 濱西 邦和	インテリアデザイン/家具デザイン	324,007
8	株式会社ジェー・キューブ	デザイン/CG 映像技術ソフトウェア開発	465,910
9	株式会社プラブラックス	空間演出/映像製作コンテンツ制作	648,015
合計			3,600,000

(4) ACY 助成事業 専門サポート業務委託

クリエイティブ・チルドレン・フェローシップ、クリエイティブ・インクルージョン活動助成の継続的なサポートや、評価・検証を知識と実績のある専門家に業務委託し、各助成事業、申請者個人、ACY 助成制度の成長を促すプログラムを実施。同時に、伴走型評価として、各申請事業の評価を行い、報告書をまとめました。

【実施内容】

実施期間;平成 29 年 5 月～平成 30 年 3 月

協働:国際芸術祭及び地域アートプロジェクトの事業評価検証会運営事務局(代表:熊谷薫)

内容:①アーツコミッション・ヨコハマの助成プログラムの採択者(交付者)のサポート

個別面談、情報提供、アドバイス

②助成プログラムの審査・視察補助

審査・報告会実施時の事務局業務サポート(記録等)

③アーツコミッション・ヨコハマの助成プログラムの評価・検証

評価設計、指標設計(ACY と協働)

調査方法検討→調査実施(アンケート等)

アンケート集計(事前事後、本番参加者に実施)

インタビュー設計(面談による)、データ分析

報告書編集、執筆、デザイン

報告会:中間報告会 9 月 12 日(インクルージョン助成のみ)

最終報告会 3 月 2 日、4 日(両方)

4 創造都市プロモーション

文化芸術創造都市・横浜の取り組みについてアートやデザインのファンに向けて広く周知するため、横浜市都心部における諸活動を紹介するプロモーション活動を行う事業。イベント等の催事のほか、創造都市政策のもとに横浜に集った人材やプロジェクトなどを、ウェブサイト(SNS 含む)を運用して発信しました。



(1) WEB マガジン『創造都市横浜』

創造都市横浜の魅力を紹介するメディア。Facebook、Twitter 等の SNS と連動し、取材・執筆を基本に「読みもの」として情報発信を行いました。

掲載記事:62 本、Facebook 215 本、Twitter 144 本

編集方針:アート、産業、まちづくりなど、広くクリエイティブな活動を取り上げる。イベント情報に限らず、日常的な取り組みや中長期的なプロジェクトなども読み物としてストーリー性を加えて紹介。クリエイティブな視点で横浜の人や街を取材し、①特集、②ひと、③モノ、④コト、⑤街、⑥食べる、⑦コラム、⑧イベントのカテゴリーを設け、記事を作成。

①アクセス数 (URL: yokohama-sozokaiwai.jp 内)

月	アクセス数	月	アクセス数
4 月	123,442	10 月	186,019
5 月	120,495	11 月	175,400
6 月	122,115	12 月	160,532
7 月	119,702	1 月	146,526
8 月	143,875	2 月	164,950
9 月	137,913	3 月	193,312

合計 1,794,281 (前年 1,616,167 前年度比 110%)

②Facebook いいね数

月	いいね数	月	いいね数
4 月	20,864	10 月	20,894
5 月	20,871	11 月	20,916
6 月	20,865	12 月	20,894
7 月	20,880	1 月	20,879
8 月	20,912	2 月	20,861
9 月	20,889	3 月	20,927

③Twitter フォロワー数

月	フォロワー数	月	フォロワー数
4 月	7,577	10 月	7,769
5 月	7,601	11 月	7,754
6 月	7,640	12 月	7,764
7 月	7,686	1 月	7,790
8 月	7,689	2 月	7,797
9 月	7,723	3 月	7,910

(2) アーティスト・イン・レジデンス情報ウェブサイトの作成

都心臨海部における創造界隈拠点をはじめとした各芸術文化施設で実施されるアーティスト・イン・レジデンスプログラム(AIR)では、芸術家を受け入れ、滞在制作や一般公開事業の開催、横浜市民・アーティストとの交流が行われています。こうした芸術文化活動の魅力を発信することを趣旨に、AIR 活動に関わる情報を集約したウェブサイト「横浜 AIR」を立ち上げました。

【概要】

名称: 横浜 AIR URL <http://yokohama-air.org/>
 内容: AIR プログラムの紹介、インタビュー、アーカイブ
 で構成されたサイト

運用: 平成 29 年度はシステム構築まで。
 平成 30 年度からは逐次、プログラム紹介、
 インタビューをはじめとしたコンテンツを更新

登録: 創造界隈拠点はじめとした芸術文化施設
 利用者: 国内外のアーティスト、芸術文化団体及び施設等



(3) 横浜市クリエイターデータベースの作成

ACY の活動の成果として、都心臨海部に集積するアーティストやクリエイターの力を市内の事業に繋ぎ、さらに横浜の魅力を生み出し発信していくことを趣旨に、グラフィックや WEB 等のデザインに関わるクリエイターのプロモーションのための検索・紹介機能に優れたサイト「横浜市クリエイターデータベース」を平成 28 年度に立ち上げ、29 年度はその運用を行いました。利用者のアンケートを実施し、細かな改修を行っています。

【概要】

名称：横浜市クリエイターデータベース URL <https://acy.yaf.jp.org/creatorsdatabase/>
内容：クリエイター的制作事例、得意分野提案、会社概要を紹介するページで構成されたサイト

登録者数：36 組

登録者：グラフィック、WEB、映像、写真、イラスト等、クライアントワークを行っているデザイナー、もしくはその方が代表者を務める法人等。

利用者想定：企業、行政各部署、NPO 等

平成 29 年度アクセス数 103,767



5 関内外OPEN! 9

都心臨海部に集積したアーティストやクリエイターが、クリエイティブ好きの市民に向けてスタジオを開き、ワークショップやトークを共に楽しむイベントです。9回目を迎えた今年度は、クリエイターが共同して実施する「道路のパークフェス」と個別に実施する「オープnstudio」を行いました。道路のパークフェスは、「関内フード&ハイカラフェス」や、「馬車道まつり」と合同開催し、街方へ積極的にプレゼンテーションしていくことで、より深く市民とクリエイターが交流する機会となりました。また、スマートイルミネーション実行委員会、横浜まちづくり倶楽部と質の高い夜間のアートイベントを共同開催し、新たな横浜の魅力を発信しました。

日程：平成 29 年 11 月 3 日（金・祝）、4 日（土）

会場数：51 会場＋道路のパークフェス

参加スタジオ数：107 組

実施プログラム数：65 プログラム

来場者数：2912 名

インターン生の受け入れ：美術系、建築系、社会学系等の学部から 12 名



【スタジオ等の一覧】

	アトリエ、スタジオ名	イベント名
1	常盤不動産ビル207（古市久美子建築設計事務所＋本のモ・クシュラ）	古市久美子建築設計事務所＋本のモ・クシュラ オープンオフィス
2	株式会社クワタデザインオフィス	まちのコラージュ
3	STUDIO KOJI SEKIMOTO	オープンスタジオとまちゼミ
4	mass×mass 関内フューチャーセンター	.mass×mass cafe Portland Tour 報告会 2017「TOUCH PORTLAND Vol2」
5	Art Connect Yokohama. × ホリゾントデザイン	馬車道でお持ち帰りワークショップ vol.2
6	nibi	トントンカンカンオリジナルアクセサリーのワークショップ
7	bear	ドロップインbear
8	みかんぐみ	みかんぐみOPEN!9
9	FAB LAB関内	レーザー彫刻で「my箸作り」
10	NPO法人横浜コミュニティデザイン・ラボ	「さくらWORKS＜関内＞」オープンオフィス
11	オンデザインパートナーズ	オンデザイン新拠点オープン
12	オンデザインパートナーズ	模型づくりフォト
13	有限会社アイトゥーン	アニメーションスタジオ「LTOON」
14	小泉アトリエ	小泉アトリエ Open Studio
15	新井ビル3階	オープンスタジオ・屋上OPEN!
16	泰生ビル	オープンスタジオ
17	泰生ポーチ	オープンスタジオ
18	常盤不動産ビル（No.1 古市事務所除く）	オープンスタジオ
19	相澤事務所株式会社	テナバー by aizawa office
20	天野和俊デザイン事務所	夜のオープンスタジオ2017
21	IKEDA ARCHITECTURE 池田建築設計	ここまで来ている、3Dによる建築デザイン！！
22	LIST LINK LOUNGE	「芸術と社会をつなぐ講座～はじめて学ぶ日本のアートマーケット～」
23	モトマチポート（シェアードオフィス）	MOTOMACHI x チャーミングウォーク
24	stgk inc.（スタジオゲンクマガイ）	Open studio / 旅と食 vol. 4
25	abanba inc.	新事務所お披露目・open studio
26	インベリアルビル EverGreen-wedding	スマイリー ポートレート
27	インベリアルビル 無敵案	横浜市歴史的建造物で茶道体験
28	横浜元町AASTUDIO	「エノテカ エミコ」一夜限りのワインバー
29	Archishop Library & Café	第10回 アート＋骨董マーケット
30	有限会社 横浜シネマリン	横浜シネマリン「バックステージツアー」
31	Art n' English Studio / アンイーススタジオ	アンイーススタジオ・オープンスタジオ&「エリック・カールのカラフルコラージュ」
32	ひらがな商店街アートスペース「と」	「ペーパークラフトで楽しむトリエンナーレ」関内外OPEN!編
33	コトラボ合同会社 ヨコハマホステルヴィレッジ	kotobuki party @ yhv & ナイト寿ツアー
34	有限会社スタジオニブロール	超短大
35	LAUNCH PAD GALLERY	モノタイプ版画ワークショップ
36	ノガン株式会社	オープンスタジオ
37	横濱帆布靴 万国場SOKO工房	Let's make your own Totebag!
38	NPO法人ザ・ダークルーム・インターナショナル	魅惑の横浜をポストカードにしよう！
39	NDCグラフィックス	オープンオフィス&トリエンナーレポップアップショップ
40	万国橋SOKO2011/ルーデンス	万国橋シェア オフィス見学会
41	BUKATSUDO	ムービングバンケーキWS
42	モトマチポート（シェアードオフィス）	第10回SHABEKURA Travel
43	シネマ・ジャック&ベティ	ミニシアター見学&映写室ツアー
44	Patio-Labo	冬ごもりワークショップ「冬にそなえて、カラフルな冬ごもり準備をしよう！」
45	新井卓写真事務所	プロジェクト 残丘セッション #02 杉原悠人「右翼：現代日本の＜普通＞とはなにか（仮題）」
46	黄金町エリアマネジメントセンター	アーティストスタジオベジツター
47	旧劇場	踊る！旧劇場
48	nitehiwroks 末吉町	オープンスタジオ
49	若葉町ウオーフ	オープンスタジオ
50	Awake Atelier	レザーとオリジナル真鍮金具で手作り体験（コインケース）
51	Awake Shop	レザーとオリジナル真鍮金具で手作り体験（キーホルダー）
52	otonomori	Street wellness yoga
53	NPO法人ハマのトウダイ	関内外OPEN！スリッパ卓球選手権大会
54	Ozone	サイレントディスコ
55	横浜元町AASTUDIO	〇展示：「コサージュと、リースと、トートと・・・」〇ワークショップ：「モンスターバッジ！」エノテカ・エミコ
56	ひらがな商店街アートスペース「と」	出張「と」
57	Art n' English Studio / アンイーススタジオ	カラフル・キラキラ・スライム
58	コーヒータロー	出会いを楽しむコーヒー
59	studio Irodori+アンブレラ関内	クリエイターの本を手に入れよう
60	Studio Nibrol+LAB+NOSIGNER	デザイン都市のアゴラ
61	SHUHALLY 松村宗亮	お茶会♡コンパ
62	コンテンボラリーズ	道路でスリラー！
63	小山飛鳥、六反征吾、内藤正雄	土の顔 フェイスペインティング
64	梶井淳介デザインスタジオ+小川清孝（セサミファクトリー）	らくがき栈道～みんなで道路に絵を描こう！～
65	横濱まちづくり倶楽部	ナイトピクニック

6 ドックヤードガーデン活用事業（施設名：BUKATSUDO）

ドックヤードガーデン活用事業運営協議会を通じて、参加 5 社（横浜市、三菱地所（株）、三菱地所プロパティマネジメント（株）、（株）リビタ、当財団）で情報共有を行っています。

“大人のためのシェアプレイス”をコンセプトに作られた施設は、みなとみらい地区で働く人々の心をつかみ、新たなコミュニティ拠点へと成長しています。BUKATUSDO の利用者やクリエイターの紹介、財団自主事業での利用、各種広報協力を行いました。

7 国際舞台芸術ミーティング in 横浜 (TPAM in Yokohama 2018)

今年で開催から 23 年目を迎えるアジアで最も古い国際的な舞台芸術のプラットフォーム。PARC（国際舞台芸術交流センター）を事務局に、当財団、国際交流基金、公益財団法人神奈川芸術文化財団の 4 者が実行委員会として主催し、組織の垣根を越え、都心臨海部の創造界隈を中心に多様な文化施設が協働しました。

9 日間にわたり、同時代の舞台芸術に関わるプロフェッショナルが国や地域を超えて出会い、公演、ディスカッション、ミーティングなど多彩なプログラムを通して情報交換、相互学習、ネットワーキングを行いました。より豊かな国際ネットワークづくりに貢献し、様々な作品・人材を横浜から世界へ発信しました。



コンタクト・ゴンゾ+スカイチャーチ/群衆の音像



梅田哲也/インターンシップ



会期：平成 30 年 2 月 10 日～18 日

会場：KAAT 神奈川芸術劇場、BankART Studio NYK、横浜赤レンガ倉庫 1 号館

YCC ヨコハマ創造都市センター、急な坂スタジオほか

公演数：11 演目 72 公演（公演プログラム「TPAM ディレクション」）

フリンジ：56 団体・39 会場・261 公演

総来場者数：28,203 名

海外からの参加国数：47 カ国

登録者+アーティスト：846 名

うち来日アーティスト・ディレクター等：390 名（前年度 423 名）

＊当財団からは、スピード・ネットワーキングに A C Y 職員（相談・助成制度の説明）、横浜能楽堂事業担当職員が参加しました。